

新
いわみざわの民話

発刊にあたって



岩見沢市教育委員会 教育長 三角 光二

明治17年(1884)10月6日に岩見沢村が誕生し、その翌年にかけて山口県・鳥取県ほか10県から入植した士族277戸1503名により、開拓の鉤が打ち下ろされた後、分村して明治25年には栗沢村が、明治33年には北村が誕生しました。その後、自由移民として一般の人々が農村方面にも移り住み、北国の厳しい風雪と闘い、筆舌に尽くせぬ幾多の苦難を克服して、今日の郷土を築きました。3市町村が独自の文化を育み発展していく中で、平成18年の市町村合併により、新しい岩見沢市が誕生し、早10年が経過いたしました。

郷土資料「岩見沢民話」調査研究・活用事業実行委員の皆様には、5年間にわたって、旧岩見沢市・栗沢町・北村それぞれの地域で開拓期より語り継がれてきた民話について調査研究していただき、新岩見沢市（合併後）の伝承文化財として再構成され、全172編257ページにわたる資料を作成していただきましたことに心より敬意を表したいと思います。

遠い北海道の未開の大地で、血と汗と土にまみれ、開拓の精魂を傾けた日々の生活。そこからにじみ出た苦しみ、悲しみ、喜び、驚きや恐怖、不思議、うわさ、秘話などを題材として語り継がれてきた昔話、伝説、民話と呼ばれるものは、当時の生活や歴史を想起する貴重な資料であって、これを通して歴史の一面にふれることは、心のふるさとを築くことであるとともに、郷土への愛を育むことであり、さらには新しいふるさとを創造することにも通じると感じております。

この「新 いわみざわの民話」が、後世の岩見沢市民に伝承され、郷土岩見沢に対する愛着と誇りを育む一助となることを期待するとともに、刊行にあたりご尽力いただきました実行委員の皆様に感謝申し上げ、発刊にあたってのことばとさせていただきます。

郷土資料「岩見沢民話」調査研究・活用事業実行委員会



実行委員氏名

実行委員長	尾崎和男	(岩見沢担当)	前列中央)
副実行委員長	片山進	(北村担当)	前列左)
実行委員	武田修	(栗沢担当)	前列右)
実行委員	羽根敏博	(北村担当)	後列中央)
実行委員	内藤健二	(岩見沢担当)	後列左)
実行委員	辻村淑恵	(栗沢担当)	後列右)

事務局 岩見沢市教育委員会生涯学習・文化・スポーツ振興課郷土科学館

「新 いわみざわの民話」 (非売品)

編集者 郷土資料「岩見沢民話」調査研究・活用事業実行委員会
岩見沢市志文町809番地1号 岩見沢郷土科学館内

発行者 岩見沢市教育委員会
岩見沢市4条西3丁目1番地 であえーる4F